

黙示録 11 章 6 節-13 節 スタディーガイド

二人の証人を殺そうとする者は、彼らの口から出る火によって殺されます。二人の証人は、神様から恐るべき力が与えられています。(黙示録 11:5)

★ 黙示録 11 章 6 節

この人たちは、預言をしている期間は雨が降らないように天を閉じる力を持っており、また、水を血に変え、そのうえ、思うままに、何度でも、あらゆる災害をもって地を打つ力を持っている。

この人たちは、預言をしている期間は雨が降らないように天を閉じる力を持っており、また、水を血に変え、

奇跡を行う二人の証人です。

旧約聖書でエリヤが行った奇跡であり、モーセが行った奇跡でもあるゆえ、この二人がエリヤとモーセだと考える神学者たちが多くいます。

奇跡は彼ら自身が行っているわけではなく、神様が行っておられます。ですから、奇跡によって誰であるかということとは分かりません。

神学者の中には、マタイの福音書 17 章 2 節から 3 節で、イエス様が高い山に行かれた時、変貌なさり、エリヤとモーセが現れたゆえに、やはりこの奇跡につなげて、この二人の証人はエリヤとモーセであると語っています。

イエス様の変貌なさった時、モーセとエリヤが現れましたが、モーセは律法を代表して、エリヤは預言者の代表として現れています。

マタイの福音書 17 章 5 節「雲の中から、『これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい』という声をした」

旧約聖書のみことばを表して、これからは「イエス様のおっしゃることを聞きなさい」と言われたのです。

犬だと呼ばれていた異邦人でも信じる者はきよめられ、モーセの律法で汚れた物と呼ばれていた食物も、イエス様によってきよめられました。

律法は十字架に釘付けられたのです。黙示録の二人の証人とは関係がないと思われれます。この二人がモーセとエリヤだとは考えられません。

マラキ書 4 章 5 節「主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。」

エリヤが終末に現れることは確かです。しかしここでは、エリヤであるかどうかは記されていません。



黙示録 11 章 7 節 - 10 節

そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。もろもろの民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめていて、その死体を墓に納めることを許さない。また地に住む人々は、彼らのことで喜び祝って、互いに贈り物を贈り合う。それは、このふたりの預言者が、地に住む人々を苦しめたからである。

7 節「彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。」

彼らの伝道の期間である、1260 日が終わった時です。サタンは、聖書のみことばをよく知っていますから、二人の証人が 1260 日間伝道することを知って、その日を待っていたのです。

7 節「底知れぬ所から上って来る獣」

反キリストのことです。

8 節「彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。」

3 年半殺すことができませんでしたが、反キリストがいとも簡単に彼らを殺しました。衛生中継で彼らの死体が映され、彼らを殺した反キリストがほめたたえられていることでしょう。

8 節「霊的な理解ではソドムやエジプト」

ソドムは、彼らの罪が天まで達して神様が破壊された町です。エジプトは、主の民を奴隷にした国です。

8 節「彼らの主もその都で十字架につけられたのである。」

イエス様が十字架に架かられた都はエルサレムです。

ゼカリヤ書 4 章 14 節「これらは、全地の主のそばに立つ、ふたりの油そそがれた者だ。」

二人のメシアを殺した悪い都を聖なる名であるエルサレムとは呼ばないで、神様に逆らうソドムやエジプトであると呼んでいると考えられます。

9節「もろもろの民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめていて、その死体を墓に納めることを許さない。」

人類のあらゆる人々が彼らの死体をながめているのですから、衛星放送であると考えられます。

申命記 21 章 22 節、23 節に、「もし、人が死刑に当たる罪を犯して殺され、あなたがこれを木につるすときは、その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない」と命令されており、ユダヤ教では死人は 24 時間以内に葬るように努めている教派もあります。

死体を 3 日半、墓に納めることを許さないという行為は最高の嫌がらせです。

10 節「また地に住む人々は、彼らのことで喜び祝って、互いに贈り物を贈り合う。」

大患難時代の中で、人々が喜びに満たされている唯一の箇所です

10 節「このふたりの預言者が、地に住む人々を苦しめたからである。」

イエス・キリストが唯一の救いの道であり、唯一の真の神である、ということを目にするには、人々にとって心が煮えくり返るほどの怒り、また耐えがたい思いであったと考えられます。人々が喜んでいる理由は、その二人が殺されたからです。



黙示録 11 章 11 節－12 節

しかし、三日半の後、神から出たいのちの息が、彼らに入り、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々は非常に恐怖に襲われた。そのときふたりは、天から大きな声がして、「ここに上れ」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。

11 節「三日半の後、神から出たいのちの息が、彼らに入り、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々は非常に恐怖に襲われた。」

これは恐らく衛生中継の真っ最中に起こることでしょう。

9・11 でツインタワーが崩れていくのを世界中が震える思いで見たように、二人の証人の死んだのを見て、反キリストをほめたたえていた人々は、気を失うような思いでこれを見ることでしょう。

12 節「そのときふたりは、天から大きな声がして、「ここに上れ」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。」

テレビを見ていなかった人々も、ざわめきに引きつけられてテレビに近付くと、彼らが雲に乗って空中に引き上げられて行く様子をカメラが追っているのを見るでしょう。

人々が感じる恐怖は、想像を絶するものと思われます。イエス様が死んで復活され、弟子たちが見ている時に天に上げられ、雲に隠れられたように、この二人の証人（メシア＝油注がれた者）も同じような形で天に上げられます。

★ 黙示録 11 章 13 節

そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のため七千人が死に、生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた。

そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れ、この地震のため七千人が死に、

ただならぬ大きな被害です。エルサレムは、高くそびえるマンションが至る所にあります。その十分の一が倒れたら大変な被害です。

死者の数は7千人と言いますから、阪神大震災の時の死者の数と似ています。

生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた

封印の災難の時も、ラッパの災難の時も、神罰であることを知りながら、人々は天の神を崇めませんでした。二人の証人の昇天によって、恐怖に満たされて天の神に心を向けています。反キリストへの崇拝は変わっていません。

しかし、ユダヤ人は違います。2千年前に彼らが拒否したイエス様が、真の神、創造主でありメシアであったことを二人の証人を通して聞いています。そして、彼らの語ったことが真であったことを悟っています。

ただし、悔い改めには達していません。この人々は、誰かが言ったことで悔い改めをする人々ではなく、本当のことだと分かったので、それを自分で調べ、納得してから悔い改める人々です。

◆MEMO◆